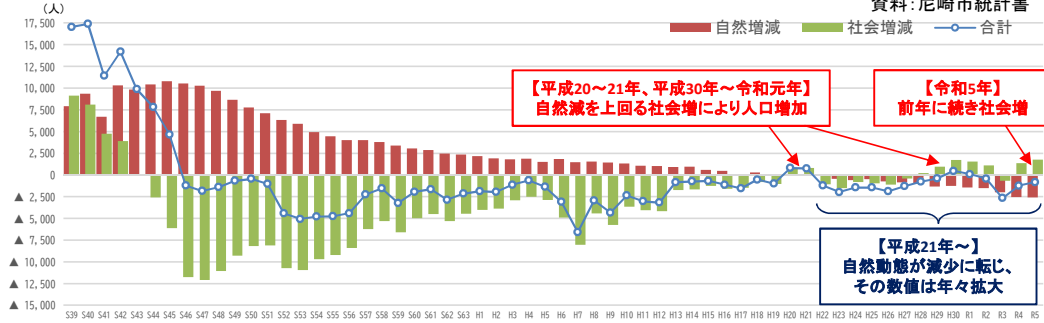


【概要版】人口動態等に関する報告書（令和5年度版）

○ 尼崎市の人口動態（報告書P.17～）



【昭和39年～昭和45年】
人口増

【昭和46年～平成19年】
自然増を上回る社会減により人口減少

人口増減数（単位：人）						自然増減数（単位：人）						社会増減数（単位：人）					
	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年		令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年		令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
全 市	76	▲442	▲2,672	▲1,253	▲849	全 市	▲1,441	▲1,537	▲1,993	▲2,578	▲2,614	全 市	1,517	1,095	▲679	1,325	1,765
中央地区	▲58	▲46	▲167	▲458	▲304	中央地区	▲432	▲446	▲439	▲562	▲539	中央地区	374	400	272	104	235
小田地区	▲230	▲571	▲833	105	10	小田地区	▲370	▲374	▲466	▲585	▲504	小田地区	140	▲197	▲367	690	514
大庄地区	▲426	▲302	▲655	▲708	▲458	大庄地区	▲387	▲399	▲485	▲495	▲604	大庄地区	▲39	97	▲170	▲213	146
立花地区	▲30	29	▲546	▲385	▲151	立花地区	▲284	▲353	▲490	▲509	▲503	立花地区	254	382	▲56	124	352
武庫地区	▲93	▲51	▲409	▲473	▲110	武庫地区	▲83	▲43	▲110	▲230	▲250	武庫地区	▲10	▲8	▲299	▲243	140
園田地区	913	499	▲62	666	164	園田地区	115	78	▲3	▲197	▲214	園田地区	798	421	▲59	863	378

資料：尼崎市人口月報

資料：尼崎市人口月報

資料：尼崎市人口月報

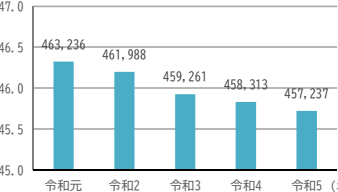
○ 地区別人口の状況

1 人口（報告書P.1～）

市全体でみると、令和2年度以降人口減少が続いている。令和元年度から令和5年度にかけて、1.3%減少（▲5,999人）している。

地区別にみると、令和元年度から令和5年度にかけて、園田地区のみ増加しており、0.8%増加（817人）となっている一方で、その他5地区では減少しており、大庄地区は3.9%減少（▲2,094人）となり、最も高い減少率となっている。

尼崎市の人口の推移



資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

人口（各年度末現在）（単位：人）						
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	変化（R1-R5年度）
全 市	463,236	461,988	459,261	458,313	457,237	▲5,999 ▲1.3%
中央地区	52,847	52,752	52,346	52,116	51,774	▲431 ▲2.0%
小田地区	75,378	74,787	74,207	74,408	74,239	▲1,139 ▲1.5%
大庄地区	53,147	52,891	52,003	51,425	51,053	▲2,094 ▲3.9%
立花地区	108,129	107,996	107,473	107,051	106,966	▲1,163 ▲1.1%
武庫地区	76,501	76,218	75,766	75,397	75,154	▲1,347 ▲1.8%
園田地区	97,234	97,344	97,466	97,916	98,051	817 0.8%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

2 65歳以上の人口（報告書P.4～）

市全体でみると、令和元年度から令和5年度にかけて、2.1%減少（▲2,665人）している。

地区別にみると、令和元年度から令和5年度にかけて、中央地区、小田地区、大庄地区の南部3地区での減少が目立つ。

65歳以上人口（各年度末現在）

65歳以上人口（各年度末現在）（単位：人）						
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	変化（R1-R5年度）
全 市	127,749	127,585	126,887	125,871	125,084	▲2,665 ▲2.1%
中央地区	16,045	16,030	15,927	15,748	15,611	▲434 ▲2.7%
小田地区	21,784	21,637	21,432	21,196	20,953	▲831 ▲3.8%
大庄地区	17,072	16,914	16,708	16,421	16,689	▲383 ▲2.2%
立花地区	29,514	29,549	29,461	29,234	29,084	▲430 ▲1.5%
武庫地区	19,838	19,852	19,842	19,888	19,881	43 0.2%
園田地区	23,496	23,603	23,517	23,384	23,362	▲134 ▲0.6%

資料：尼崎市の人口（住民基本台帳人口）

○ 人口動態の状況

1 地区別単身・二人世帯における社会動態

(1) 単身世帯の傾向（報告書P.22～）

市全体でみると、ここ5年間は、転入超過の傾向が続いている。令和3年は転入超過数が大幅に減少したが、令和4年以降は増加傾向にある。

地区別にみると、令和元年以降は、中央地区、小田地区、立花地区、武庫地区、園田地区で転入超過の傾向が続いている。また、大庄地区は、令和2年から令和4年まで転出超過であったが、令和5年に転入超過に転じている。

(2) 二人世帯の傾向（報告書P.26～）

市全体でみると、令和元年以降、転入超過の傾向が続いている。令和3年は転入超過数が大幅に減少したが、令和4年以降は増加している。

地区別にみると、大庄地区で令和元年と令和3年に、武庫地区で令和4年に、中央地区で令和5年に転入超過が見られるほかは、すべての地区で転入超過となっている。

● 単身世帯の社会動態

（単位：人）

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	変化（R1-R5）
全 市	2,100	1,736	771	1,697	2,198	98
中央地区	331	425	369	281	378	47
小田地区	240	105	25	447	300	60
大庄地区	65	▲14	▲93	▲81	54	▲11
立花地区	634	552	267	443	639	5
武庫地区	54	129	63	17	137	83
園田地区	776	539	140	590	690	▲86

資料：尼崎市都市政策課

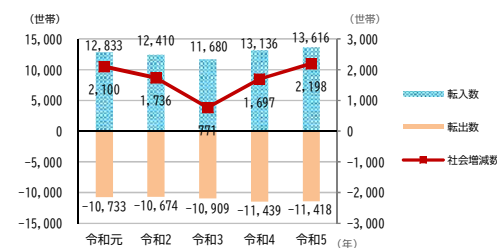
● 二人世帯の社会動態

（単位：人）

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	変化（R1-R5）
全 市	350	360	92	396	255	▲95
中央地区	26	54	15	3	▲12	▲38
小田地区	66	27	8	166	117	51
大庄地区	▲17	71	▲7	39	22	39
立花地区	86	77	20	37	23	▲63
武庫地区	89	80	14	▲27	50	▲39
園田地区	100	51	42	178	55	▲45

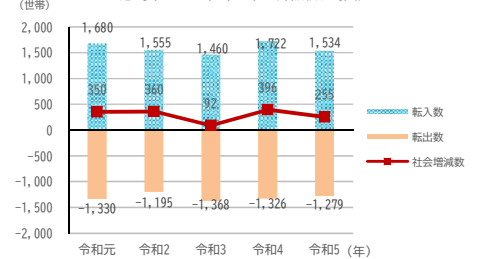
資料：尼崎市都市政策課

尼崎市の単身世帯の社会増減数の推移



資料：尼崎市都市政策課

尼崎市の二人世帯の社会増減数の推移



資料：尼崎市都市政策課

2 10歳階級別、転入元・転出先別 社会動態（報告書P.33～）

令和元年から令和5年にかけての社会動態を10歳階級別にみると、特に20歳代で大幅な転入超過の傾向が続いている。一方、10歳未満は、大幅な転出超過が続いている。また、30歳代は令和元年以降、転入超過が続いていたが、令和5年は転入超過に転じている。

また、自治体別の本市への移動状況をみると、神戸市及び西宮市で毎年転入超過になっている。一方、伊丹市及び東京圏で、毎年本市からの転出超過となっている。大阪市では令和3年には転入超過となっていたが、令和4年から再び転入超過に転じている。

10歳階級別社会動態（転入－転出）

（単位：人）

単位（人）	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
総 数	1,223	928	▲456	891	1,282
0～9歳	▲595	▲569	▲613	▲540	▲368
10～19歳	213	171	50	99	105
20～29歳	1,803	1,309	1,016	1,352	1,587
30～39歳	▲90	▲151	▲434	▲47	104
40～49歳	▲69	102	▲222	28	▲93
50～59歳	43	100	▲16	253	93
60歳以上	▲82	▲34	▲236	▲252	▲145

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(注1) 数値には外国人の移動を含む。

(注2) 「総数」は転出先・転入元・年齢不詳等を含み年齢別の合計と合わないことがある。

転入元・転出先別社会動態（転入－転出）

（単位：人）

単位（人）	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
総 数	1,223	928	▲456	891	1,282
神戸市	513	422	250	561	692
明石市	▲20	▲37	47	▲21	▲36
西宮市	87	146	20	103	121
伊丹市	▲40	▲124	▲290	▲85	▲6
宝塚市	▲96	▲41	27	13	▲89
大阪市	5	▲13	▲123	209	134
豊中市	20	▲47	▲59	32	▲11
東京圏	▲762	▲421	▲484	▲404	▲567
その他	1,516	1,043	156	483	1,043

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(注1) 数値には外国人の移動を含む。

(注2) 「総数」は転出先・転入元・年齢不詳等を含み地域別の合計と合わないことがある。

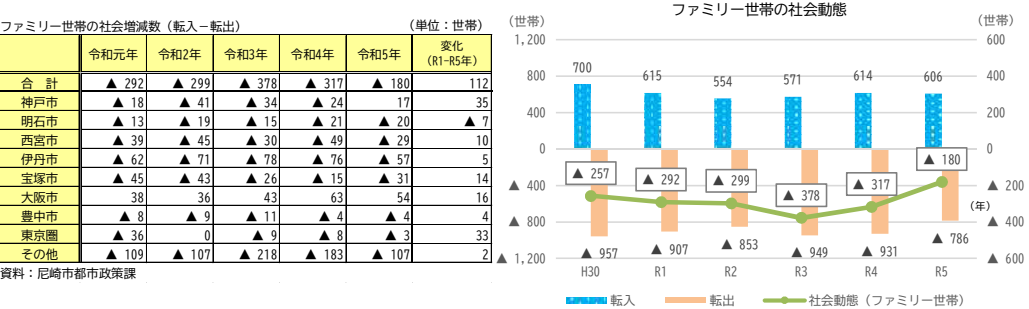
○ ファミリー世帯（５歳未満の子どもがいる世帯）の状況

1 転入元・転出先別 社会動態（報告書P.38～）

ファミリー世帯については、令和元年から令和５年にかけて、下表に記載しているほぼ全ての自治体で本市からの転出超過となっている。明石市、西宮市、伊丹市、宝塚市及び豊中市へは毎年ファミリー世帯の転出超過が続いている。

市全体でみると、令和５年の転出超過数は180世帯となり、前年の317世帯より大幅に減少した。

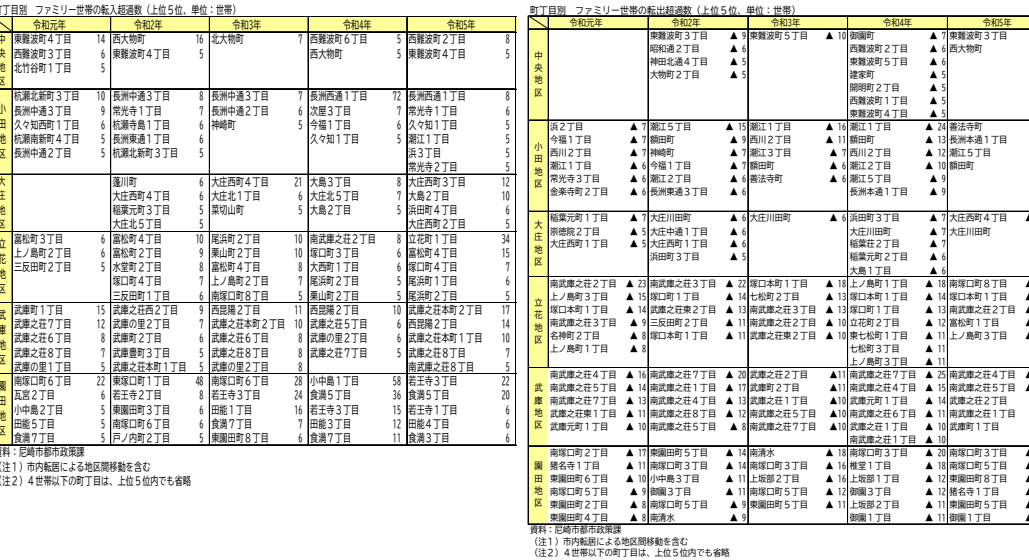
一方、大阪市からは毎年転入超過の状態にあり、その超過数は40世帯前後で推移していたが、令和４年から微増し、令和５年は54世帯となった。神戸市は令和4年まで本市からの転出超過が続いていたが、令和５年は転入超過に転じた。



2 町丁目別 社会動態（報告書P.42～）

令和元年から令和５年にかけて転入超過が目立つ町丁目は、小田地区において、令和４年の「長洲西通1丁目」、園田地区において、令和２年の「東塚口町1丁目」、令和４年の「小中島1丁目」、「食満5丁目」である。

一方、同期間に転出超過が目立つ町丁目は特になが、広い範囲で転出超過が生じている状況である。



○ 在留外国人人口の状況

1 在留外国人人口（報告書P.14～）

市全体でみると、令和元年度から令和５年度にかけて、10.4%増加（1,246人）している。

地区別にみると、令和元年度と令和５年度を比較すると、武庫地区を除く５地区において増加しており、園田地区での増加率が最も高く、18.9%増加（395人）しており、続いて小田地区の14.4%増加（239人）、中央地区の13.2%増加（253人）の順で高くなっている。一方、武庫地区では3.8%減少（▲73人）している。

